

地域コミュニティ づくりの

リアルな現場を学ぶ

スタディツアー

A SOCIAL TOUR
TO LEARN ABOUT REAL SITES
IN THE LOCAL COMMUNITY

若年層を対象としたワークショップ

広島市企画総務局 コミュニティ再生課

1 事業概要

目的

若い世代を対象としたワークショップを開催し、様々なプログラムを通じて、若い世代の価値観や地域に対する意識を把握するとともに、参加者が地域のことを考えるきっかけとすることで、参加者の郷土愛の醸成を図り、将来の地域活動の担い手確保につなげる。

実施内容

「地域コミュニティづくりのリアルな現場を学ぶスタディツアー2023」

若い世代が実際に地域等へ出向き、地域活動実践者や新たな担い手候補者と交流することで地域等の現状を知るとともに、その中で感じたことや気づきを参加者で共有し、これからの地域コミュニティとの関わり方(できそうなこと、やってみたいこと)を話し合う。

(1) 期間 令和5年8月～令和5年12月(計5回)

(2) 参加者 約20名

(広島市内に在住または通勤・通学している20代～40代)

※大学生、子育て世代の社会人、行政職員等

2 ワークショップ

(1)「地域コミュニティづくり入門 ～地域コミュニティの実情を知ろう！～」

広島市の取組(町内会・自治会等実態調査結果、広島市地域コミュニティ活性化ビジョン、ひろしまLMO)について学習した上で、第2回以降の現地視察先の事前情報や地域への聞取りのポイント等を把握した。

・日時 令和5年8月19日(土) 10:00～12:00

・場所 広島大学東千田キャンパス地域連携フロアSENDA LAB

(広島市中区東千田町一丁目1-89 東千田キャンパス総合校舎L棟5階)



本日の 内容

1

地域コミュニティとは？

2

町内会・自治会等実態調査

3

広島市地域コミュニティ
活性化ビジョン、ひろしまLMO

4

私と地域コミュニティ

2 ワークショップ

(2)「スタディツアー①②③ ～地域コミュニティの現場を巡ろう！～」

各種地域団体等の活動実践者や新たな担い手候補者から活動内容や課題等について話を聞くとともに、実際に活動へ参加することを通じて、地域の現状を知るために、以下の地域等を視察した。

【視察先】

①毘沙門台学区社会福祉協議会(LMO毘沙門台)(毘沙門台学区)

・日時 令和5年9月2日(土) 10:00～12:30

②庚午未来会議(庚午学区)

・日時 令和5年10月28日(土) 13:00～16:15

③協同労働団体「里山ワッショイ」(畑賀学区)

・日時 令和5年11月18日(土) 10:00～12:30

【内容】

- ・活動実践者から取組紹介・対話、新たな担い手候補者との対話
- ・活動現場視察、まち歩き
- ・参加者の振り返り、学びの整理・共有



2 ワークショップ

①LMO毘沙門台



視察先について

○地域活動の中心であるLMO毘沙門台は、「明るく！」「元気で！」「爽やかな！」をキャッチコピーに、消防職員住宅を改修した地域住民が気軽に集える場「毘沙門台ふれあいセンター絆」の運営や協同労働団体「びしゃもん台絆ぐらぶ」の活動など独自の取組を通して、安心・安全な・住んでよかったまちづくりを進めている。

○広島県立安古市高校とまちづくりに関する連携協定を結んでおり、高校生と一緒に毘沙門台学区の課題を発見して対応策を考え実施に繋げる「毘沙門台QUEST」を実施している。

2 ワークショップ

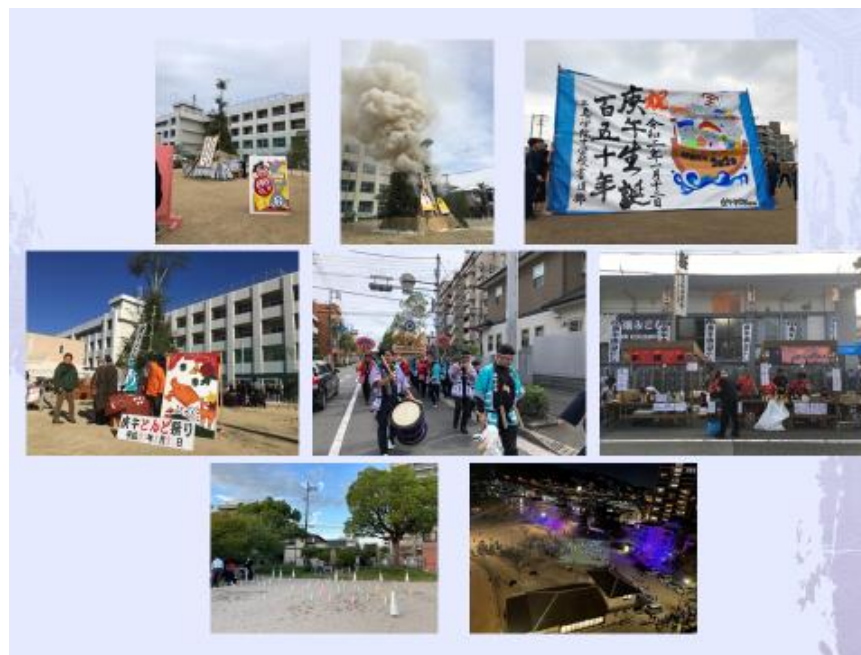
参加者の感想

- 高校生などの若い世代の行動が高齢の地元住民に好影響を与えているとお話されていて、若い世代が地域に与える力は大きいのだろうと思った。
- 若い人達の活動を受け入れ、どんどんやってもらおうという気概があり、活動を見守り支えてくれる雰囲気を感じられることで若い人達も関わりを持ちやすいと思いました。さらに若い人がいることで若い人がさらに関わりやすくなる相乗効果もあると感じた。
- 「毘沙門台ふれあいセンター絆」内を見学し、子どもから高齢者まで、様々な世代が地域活動を1つの場所に集まって行うことにより、そこから生まれる交流も多くあるのではないかと感じた。



2 ワークショップ

②庚午未来会議



視察先について

- 庚午生誕150周年(2020年)事業を実施するために、2017年に庚午地区社協の総会にて承認を受け、庚午未来会議として活動を開始した。
- 庚午未来会議では、「ブルーベリー」を活用した交流事業、イルミネーションや庚午MIRAI花火などのにぎわいづくり、地域住民とSDGsについて「いまできること」を考える庚GO-WITH PARKなどを実施してきた。
- 周年事業は終了したが、庚午未来会議は現在、地区社協、各町内会、各地域団体、企業等で構成され、庚午地区の全住民を対象とした活動の企画・調整等を行っている。

2 ワークショップ

参加者の感想

- 庚午生誕150周年事業を機に、自分の住む地域のことを知る機会を作ったことは、庚午のまちを作ってきた先人達と会話することでもあった。自分の住む地域の歴史を知っていて、語れることはかっこいいと思う。
- 昔と違って、自分で暮らす場所が選べる時代なので、ブルーベリーの栽培などテーマ的な関わり方ができるコミュニティは参加しやすいと思った。
- イベントに参加するお客様から一緒に活動する仲間に変化させるためには、それぞれの属性に合わせて、参加動機やインセンティブを組み込んでいく必要があると感じた。



2 ワークショップ

③里山ワッショイ



視察先について

- 安芸区畑賀地区では宅地化が進み新たな若い世代が増える一方、高齢化に伴い、田畑や山林の管理が困難になるケースや暮らしの困りごと・町内会未加入世帯の増加など地域の関係づくりに課題があった。それらの課題を解決するためには、会員を対象とした活動を行う町内会等の地縁団体では困難と感じ、協同労働団体「里山ワッショイ」を立ち上げた。
- 「協同労働の力で、昔ながらの里山を住民自ら取り戻せ」を合言葉に休耕田の活用と交流の場づくり、有償の困りごと支援、親子で参加できる山の魅力づくりなどを行っている。

2 ワークショップ

参加者の感想

- 協同労働は参加しているメンバーが出資も経営も労働も全てに関わることで、当事者意識を持って地域に関わることができる点が強みだと思った。
- 仕事をしながらその他の活動に自分の時間を使うことの大変さとか、高齢者の暮らしの困り事をちょっと支えたい気持ちとか、とても共感した。
- 協同労働という事業自体が新しい取組であるため、地域住民からの理解を得たり、既存の地域コミュニティとの関わり方を模索したりするためには、もっと時間と活動実績が必要なのかもしれない。



2 ワークショップ

(3)「これからの地域コミュニティとの関わり方を考えるワークショップ」

昨年度のワークショップの結果(こういう地域コミュニティは関わりやすい、関わりにくいなど)、第2回～第4回のスタディツアーを踏まえ、人とのつながりを維持しつつ、新しい人が関わりやすい理想の地域コミュニティについて話し合った。

- ・日時 令和5年12月16日(土) 13:00～16:00
- ・場所 広島大学東千田キャンパス 地域連携フロアSENDA LAB

【内容】

- ・スタディツアーの振り返り
- ・グループに分かれて、人とのつながりを維持しつつ、新しい人が関わりやすい理想の地域コミュニティについて考えるワークショップ



2 ワークショップ

主な意見

- 人とのつながりを維持するためには、日常(挨拶や世間話)と非日常(祭りやイベントなどのにぎわいづくり)の両方が大切だと思う。非日常でつながった関係を日常に落とし込むことができれば、イベント等に参加した若い世代や新たな担い手も居場所ができ、参加しやすくなるのではないかな。
- 地域コミュニティの定義を小学校区にすると若い世代や新たな担い手にとっては、範囲が広すぎてイメージしにくいいため、まずは向こう三軒両隣の範囲での課題や関心をベースにゆるくつながって活動し、活動が広がれば小学校区を範囲とした地域コミュニティと連携していくといった関わり方がいいのではないか。
- 「つながり」は、悪く言えば、「しがらみ」になるので、地域コミュニティは、地域の情報を「知る」「知らせる」という距離感で、まずは地域に興味を持ちやすい環境をつくるのがいいのではないかなと思った。
- 関わる人の負担軽減のためにも、地域内外の方の協力や業務の外注化について考えていくのもいいかもしれない。

3 まとめ

- スタディツアーを通して、若い世代においても、地域コミュニティの重要性、必要性について考え、行動に移してみたいという方が確実に存在していることが分かった。
- 若い世代は、地域コミュニティとの関わり方に多くの選択肢があることを知っておくことで関わりやすくなるため、地域コミュニティにおいては、地域の情報や活動内容などをしっかりと発信することが重要である。
- 若い世代がいる地域＝持続する地域ではなく、若い世代が関わっていても一部の人に負担が集中すると持続していくことは難しいため、関わりやすさ(出入りの自由、意見が言いやすい雰囲気等)＋続けやすさ(ライフスタイルに合う、過度な負担がない等)といった視点で地域コミュニティを考えていく必要があるのではないか。
- 協同労働は参加者が当事者意識を持って、地域に関わることができる強みがあるため、時間と活動実績を積み上げることで、地域コミュニティの活性化につながる有効な取組である。
- 地域内外の協力を得ることやイベントの一部を外注化することなどにより、効果的・効率的な運営や関わる方の負担軽減につながる可能性がある。